セックスは
気持ちいい……

あ…

あっ

ンあっ

とくに
背徳的な状況

はっ

あっ

ズッ

ズッ

ズッ

関係を持っては
ならない相手と
繋がる時ほど
身が熱くなる

たとえば
それは

んっ

ズッ

ズッ

ズッ

相手が自分の
息子の時で
あったり…

あはっ…

息子に熱く火照った肉体を慰めてもらう女

彼の名前は圭介
私の大切な
一人息子です

親の私から見ても
とても優しく
可愛い良い子です

そんな
彼のことを
私は女の目で
見るように
なりました

いけない事なのに
意識せずには
いられません
でした

あ…

どうしても
体が火照って
うずいてしまうのです

はっ…
はあ
はあ
はあ

んんっ

我慢できずに
ついオナ〇ーして
しまうくらい

クチュ♡
クチュ♡

だから私は
待っていたのです
ああっ！
ずくっ
ずくっ
ふっ
あっ
はあ
はあ
はあ
……
そんなところで
何を見ているの？
圭介……
いつか息子が
女の私を求めて
やってくるのを……
もぞ…

知ってる
圭介…？
のぞきって
犯罪なのよ
このことを
パパが知ったら
どう思うかしら？
あの…
ボク…
ごめん…
なさ…ぃ
その時……
私は震えて謝る
圭介の股間から
目が離せませんでした…
そこには
私のオナ○ーを見て
彼が欲情した証が
あったのです
しっかりと
逆立った
ソレが……
ふふ…
大丈夫よ圭介
今日は特別に
許してあげるから…
パパには内緒
……
ホントに
……？
ええ…
そのかわり
これからやる事も
二人の秘密ね……

私はさっそく
かれに奉仕を
しました
あっ
うっ
ああっ

これ気持ちいい
でしょう……？
フム…ん…
ムチュ
あッ

うあっ
なにっ…
これっ……？
ママッ…！
どうして
おちん○ん
なめるのぉ…？

あッ
うッ
初めて知る
性の刺激に
彼の体は従順に
反応しました
ジュプ♡
ヌプ♡
ヌム♡

顔をゆがめ
狂おしくよがる
息子の姿……
あっ
あっ…
あうっ
あッ
私は興奮して
隆起したその肉棒に
夢中でしゃぶり
ついたのです
ぬっ
ぬぶ
ぬちゃ
んっ
くっ
ああっ
ふっ
ふっ
ダメっ…！
ボクっ……
もうっ！

んっふぅ…！
ぐぷっ
べゅる
あ…
ああ……
ガク
ガク
ぶる…
彼は私の口内に
大量の白濁を
吐き出しました
ふふ…
すっごい量
夫よりもずっと濃厚で
若さにあふれた
粘液を……
ネロォ～

それでもソレは
おさまりませんでした
はぁ…
はぁ…
ビクン…
ビクン…
大丈夫……
教えたようにするだけでいいのよ
私は彼にさらに先へ進むよう促しました
熱くたぎった彼のものを受け入れるために
さあ来て……

そして……
ぬりゅ…
んっは…！
あああああっ！
ついに息子の
熱く硬いペ○スが
私の中へと突き入れ
られたのです

あッ
ズッ
ズッ
ズッ
あん
あっ
ズッ
ズッ
ああ！
ズッ
ズヌ
やっ
ズッ
ズプッ
はンっ！
あッ
んあっ

あっ…
ふああっ！
ズッ
ズッ
ズプ
ズヌ
圭太は
オスの本能のままに
激しく腰を振るい
ました
プギュ
プギュ
うあっ…
ママの中……
気持ちいいっ…！
ズッ
ズッ
ズッ
あはっ
あッ
ズッ
ズプ
んっ
あっ！
ズ
ズプ
ズヌ

私はその中で
息子とのセックスの
気持ちよさに
ただただ翻弄される
だけでした
いっ
あッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズヌ
ズプ
やぅ
うあン
ズッ
ズッ
ズプ
あっ…
ふあっ…！
はっ…激しいっ
……あぁっ！
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

ママあっ
ママあっ
ズッ
ズプ
あッ
ズッ
ズッ
ズッ
あッ
あッ
やっ
ズヌ
あンンっ
ズプ
ズッ
あっ
ズプ
ズ
ズヌ
いいぃっ…！
これいいの
〜〜〜っ！
はっ
ズ
ズプ

あっ
んあああっ…
圭介ちん○
すごいっ…！
ズッ
ズプ
ズ
ズ
ズッ
ズズッ
オマ○コおかしく
なっちゃうぅっ…！
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
ふはっ…
んいいぃっ！

ああ…あああっ
深いぃ……っ！
あッ
圭介チン○
子宮にまで
届いてるぅっ！
ズッ
ズッ
ズッ
ズッ
あッ
はああっ…！
ズッ
ズッ
んっ
んっ
ズッ
ズヌ
ズチュ
あン
ズッ
ズヌ
やっ
ズッ
あ…
ズチュ

ヌチュ
ヌチュ
あン
ズチュ
はぁ
ズッ
ズッシュ
ああっ
あああ…！
ズッ
ズプ
うあぁっ…
ママぁっ！
ズッズッズ
出ちゃうっ…
また出ちゃうっ…！
ズ
イクのっ…？
ズッ
イっちゃう
のねっ…？
ズッ
ズッ
ズッ
ズ
いいわ来てっ…
来てぇっ～～～！

ンあっ…
はあッ
イクイクっ…
イックぅ～～～っ！
びくっ
びくっ
びゅるっ
どびゅ
こうして
私達親子の
肉欲の日々が
始まったのです…